

♣	扉	ベトナムの民族楽器⑤	青木有理	1
♥	まなぶということ	西澤 清	2	
♠	今月の統計資料	西澤 清	2	
◆	詩	空と木通（あけび）	4	
	のこと	地引 浩	8	



## 特集 「公共」とは、なんだろう？

大阪における改革の爪痕	森 裕之	10
利用者減にゆれる公共交通— 働くものを大切にする政治を勝ち取ろう	もりやたかし	15
水道事業の「広域化」— 置きざりにされるのは、だれ？	木部 良	18
介護は、どうなるの？	村山正栄	21
効率重視の自治体— 学校給食を働くものの手で変えていく	榊 一美	24
いまこそ、学校を民主的な場に	宇野由紀子	27

### 日本のうしろ 世界のうしろ

『令和のコメ不足』と生産者の疲弊	大野和興	
トランプ減税で株価大暴落 どこに向かうカジノ資本主義	北村 巖	29

### 第2特集 世界の労働運動にまなぶ

—アメリカ・スペイン

国家と教育 26 教育の条件整備と教育裁判	高橋 哲	54
職場の法律相談 なくならない長時間労働と過労死。 労働組合にできることは？	只野 靖	58

### 「からまなぶ『賃金論』 2 賃金と春闘

◆ キャラバンサライ	42
◆ スポーツ時評	44
◆ メルボルン便り	46
◆ 経済を知ろう！	48
◆ 中国観看	50
◆ 働くものと健康	52
◆ 情報BOX	65
◆ 北から南から	66
◆ センターと みなさんをつなぐ	68
菅原修一	61

カット＝野崎安希子

### まなぶということ

少ない賃金 あがる物価  
なんで暮らしは楽にならないの

西澤 清

あるところに島がありました。その90%は「労働族」で、労働力を売り、その見返りの賃金で生活していました。労働力が自然物に作用すると価値（お金）を生むのです。また、約10%の人は「資本族」で道具を持っていて、それを使ってつくった物を売り、その「あがり」で暮らします。もうかったお金の40%ぐらいは労働族に渡し、後は自分たちが使っています。反発する人もいますが、そうした人を暴力で抑え込むのに「国家族」に権力を与えて島の秩序を保ってきました。第一ステージ「分配」

年が明けた春は、労働族と資本族とが「あがり・約600兆円・名目GDP」を分配します。その取り分は、両者の力関係で決まります。分け前に不満でも労働力を売するのに困結できない労働族の取り分は40%以下です。年間の収入は一世帯460万円です。

賃金には「自分が生きていく分、子孫を残すことができる分」がなければ社会は持続しません。近年、「自分が生きていく経費」が多くなりました。相対的に出生数が減りました。見かねた国家族が資本族に「労働族の賃金を上げてやれ」という始末です。資本族は、あげてやるが後で物価をあげれば取り戻せるのです。第二ステージ 資本族有利の「税金」

国家族は、税金を集めて暮らしています。労働族の少ない収入から所得税・地方税・保険税など46%もむしり取ります。税には、資本族には少ない仕組みが用意されています。本来、税金は「収入の多い人ほど税金を多くする（累進課税）」のが公平です。しかし収入1億円以上の人も金融資産課税の税率は、私たちと同じ20%のままです。

第三ステージ 大衆課税「消費税」  
また、1990年から、買い物をする度に10%の税がとられます。

仕組みを学ぼう

賃金が低いのは仕組みがあります。それを見抜くには、歴史から学び、事実を正確にとらえ、「まなぶこと」以外にありません。

（日教組元副委員長）